

2022年度 国際服飾学会 第2回研究会のご案内

2022年度第2回研究会を下記の通り開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：3月4日（土） 13：30～16：15

開催方法：オンライン（Zoom ミーティング）

プログラム

【研究発表】 13:30~14:30 （発表20分、質疑10分）

1. 1970年代における中国公立中高校の学生服装—山東省威海市を中心に—

黄 珂 お茶の水女子大学大学院後期課程

本研究は、1970年代における中国山東省威海市の公立中高校の学生服装に着目し、政治教育における学生の着装行為を考察するものである。

資料としては、政府の指導によって出版された山東省の日刊新聞『大衆日報』と山東省威海市の地方誌『威海記憶』、1970年代における威海市の教科書・学生卒業写真を用いた。1966年、中国共産党の権力闘争を背景に、文化大革命が毛沢東の主導で発動された。文化大革命によって極度の混乱が生じ、1966年から1976年までの十年間に起こった種々の極端な運動は、人々の生活に大きな影響を与えた。政治教育が頻繁に行われ、その結果、学生は「社会主義的基礎」に適応する紅衛兵服、人民服、素朴な私服を着用するようになった。

2. 中国少数民族の髪型と髪飾りにみる集団間の境界

謝 黎 聖心女子大学非常勤講師

中国の少数民族社会では、民族集団によって異なる髪型と髪飾りをもっていることが知られている。こうした髪型と頭飾りは、当該集団にとって、どのような意味を持つのか。また、民族アイデンティティとして注目されがちな民族衣装と比べた時、両者の異同点はどこに求められるだろうか。そして、民族衣装には変遷や流行、真似といった現象が度々見られるが、髪型と髪飾りがあまり変わらないのはなぜなのか。

本発表は、自他の境界を可視化する少数民族の髪型と頭飾りの特徴を整理し、個人と集団の関係性に注意を払いつつ、美意識・ジェンダー観・婚姻・信仰・祖先崇拝・伝説などのかかわりの中でその意味を探り、「民族服飾複合」における髪型と頭飾りの機能を考察する。

【報告】 14:30~15:00 （発表20分、質疑10分）

1. サイズ調整機能を取り入れた服飾デザインと応用の可能性 下川まつゑ 山口県立大学実習助手

これまで行ってきたサイズ調整の機能をデザインの一部として取り入れた服飾作品の創作と同時に、衣装のオーダー制作や洋服、雑貨の商品開発、販売の実験をしてきた。今回は、以前に筆者が制作した2作品を取り上げ、ドロースtringの技法やスナップボタンを用いたサイズ調整の応用の可能性についてさらに考察することにより、ファッションデザイナーの作品や実際の衣料品サイズ、貸衣装のサイズ調整機能から見出される、身体と衣服の関係を踏まえて、衣服のサイズ調整機能によるデザインの可能性について検討する。

【解説】 15:10~16:10（質疑10分含む）

「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展について 水谷由美子氏 山口県立大学名誉教授

今回の展覧会ではクリスチャン・ディオール自身とメゾンの後継者たちの作品の共演が見られる。特に注目されるポイントは以下のようなものである。

1. ディオール自身の初期の活動期に日本との強いつながりをもっていたことが紹介されていること。
2. 後継者イブ・サンローラン、マーク・ボアン、ジャン・フランコ・フェレ、ジョン・ガリアーノ、ラフ・シモンズそして現在のマリア・グラツィア・キウリが、時代背景との関係の中で、それぞれの個性を放ちつつも、ディオールブランドとして発表している点での共通点と相違点を見極める楽しさがあること。
3. 1947年から現代までの約75年を時代順やデザイナー別だけでなく、モードが流行であると同時に流行を超えたものであるように演出されていること。
4. 会場である東京都現代美術館ならではの空間を活用した各部屋ごとのユニークな空間演出やモードとアートとのコラボレーションが楽しめること。
5. 最現代のメゾンを支えるキウリのデザインはサステナブルを目指すオートクチュールの現状を表現していること。

以上の視点から展覧会を紹介し、ディオールメゾンが6人のクチュリエと1人のクチュリエールを起用し、最高峰のメゾンとして持続し続ける様相について検討する。（東京都現代美術館、5/28迄開催）

★参加申込(参加費無料) : 下のGoogleフォームにお申し込みください。

<https://forms.gle/gyZTNATrnGd9TBTr8>

申込締め切り : 2月 28 日 (火)

問い合わせ先 : 国際服飾学会研究会係 E-mail : kokusaifukushoku@gmail.com